

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793230020	
法人名	有限会社T&T	
事業所名	認知症対応型グループホーム高原の家	
所在地	福島県双葉郡川内村大字下川内字田ノ入18-3	
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和5年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな季節感を感じられる環境の中で、「利用者本位」に家庭的な雰囲気での生活が出来るよう「異体同心」の理念のもと支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型の介護事業所であることを理解し理念にも取り入れるなど、地域の中で介護の拠点となるよう、管理者・職員が一緒になって取り組んでいる。
利用者本人・家族そして職員の意見や要望を、ケアの質の向上に役立つものと前向きに考え、よいと思われることを積極的に試みる姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者本位」「異体同心」「地域密着」の理念のもとに、職員は日常生活を支援しながら、その理念の実践につなげております。	理念は利用者本位・地域密着を基本に、介護に対する心は一つという異体同心の言葉を目標に努めるよう作成している。職員が同じ気持ちで支援していると同時に利用者が安心して、落ち着いた生活が出来ている時理念が活かされていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の庭の花が見ごろの時期に「いつでも良いから見に来て」と声を掛けて頂いたり、畑でとれた野菜の差し入れがあったりといった交流があります。	毎月、村の広報誌が届いたり、募金の集金などにも来てもらっている。コロナ禍前は婦人会のボランティアがあり、各区毎に催し物を披露して貰っている。これまで、事業所の夏祭りを開き、地域住民との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様のご家族がお一人で歩いており、声掛けすると家の方角ではない方に向けて「自宅に帰る」という姿を職員が見かける。一人では心配な為、ご自宅まで送り届けたという事がありました。ご利用者様のご家族という顔なじみがあった為、多少の貢献ができたのではないかと考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスが流行してからは、2か月に1度、運営推進会議の資料を作成、提出する事で会議とみならず形になっており、意見やアドバイスを話す機会がない現状です。	会議で入居者の稼働率や、ショートステイやデイサービス利用があるのかどうか追加すると良いとの意見を貰っている。運営推進会議を通して、利用者が楽しく、安心して生活が出来るよう、季節の行事を取り入れながら、活動をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会の居宅ケアマネの方々とホームの現状や状況を伝えながら、新たに入居する方に対しての情報交換、相談などを行っております。	入院者が出た時など、市の職員や社会福祉協議会の居宅ケアマネと相談している。行政には、今まで通り信頼関係を築きながら、ホームとしての方針を聞いて貰い、互いに相談しながら、話を進めていきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で正しく身体拘束について理解するとともに、安全面に考慮した対応に努めております。(椅子から立ち上がると音が鳴るセンサーやベッドのマットレスの下と、ベッドの足元にセンサーを付け離床がわかるものなど)	利用者または他利用者等の生命または、身体の保護のため、緊急やむを得ない場合以外身体拘束は行わないとの基本方針を堅持している。言葉の拘束に気づいたときは、休憩時間に振り返り、職員同士の話し合いにつなげ、客観的に話し合う機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話す機会を多く持ち、振り返りを重要視している。検討を重ねることで虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会にもまだ至っておりません。必要に応じて活用が出来るよう学ぶ機会を設けていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際に契約書、重要事項説明書、看取りに関する指針を読み上げながら説明を行い、理解、納得して頂けるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡、広報誌により近況を報告している。また面会時には近況を伝えることで、ご家族と少しでも話す機会を設けている。	受診で、家族では適切に答えられないため、職員に付き添ってほしいとの意見があり、職員が対応したりしている。いただいた意見や要望は、口頭・申し送りノート等を利用し共有している。利用者・家族からの意見や要望は、ケアサービスの質の向上に役立つものと理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	休憩時間やお昼休憩の時間を利用し、職員の意見や提案を聞く環境作りを努めております。	利用者の状況に合わせ、勤務時間の変更や業務内容の変更などの意見があり、日勤者、夜勤者それぞれに偏った負担が行かないよう業務内容を見直している。職員から資格取得や研修会への参加の要望があったときは、希望に沿ったシフトが出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は、ホームの現状を介護職員の立場になって理解してくれる。職員の勤務状況を把握した上で、管理者や職員の話しやすい環境作りと、話を聞いてくれる姿勢が職場環境整備につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、管理者に対して様々な相談事に、これまでの経験を交えた話をしてくれる。職員に対しても話す機会を設け、現状把握に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス流行により、同業者同士の交流機会がない状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活リズムを掴み、環境に慣れて頂きながら、ご利用者様が話しやすい環境作りと安心して生活が出来るよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたって、ご家族の要望、意向を聞きながら、信頼関係が築けるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたってその時に必要なサービス内容を検討、支援してまいります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんで頂いたり、生活の中で出来る事を手伝って頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌で状況報告をしている。何かあれば電話連絡、相談をし、状況に応じてご家族の協力を得ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス流行により、ご家族以外の方との交流する機会がありません。	これまで同じ区の方や、昔のキノコ採り仲間などと出かけている。利用者の希望で桜や紅葉の景色を眺めにドライブに出かけている。近所の方から野菜の差し入れがあったり、いつでも庭の花を見に来てという話があったり、その時に出来る関わりを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性など考慮しながら席替えをしたり、話が出来た環境作りに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族より、利用相談といった電話が時々あり、相談支援に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で「これ食べたいな」「昔こんなことして食べたな」などの会話から、ご利用者様の意向や希望を把握し、出来るだけ意向に沿えるよう努めております。	一対一になった時、ふとした会話の中から思いを聞く事があり、家に行って服の整理をしたい、家に帰りたい、年をとったから野菜づくり出来ない等に、家族に聞いてみます、暖かくなったら大丈夫ですよなど安心できるような声かけに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時にご利用者様の生活歴を聞き、これまでの暮らしの把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の一人ひとりのその日の体調に合わせて、無理のない生活が送れるよう、状態観察に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居にあたって、ご利用者様、ご家族の意向を聞き、困っている事などを踏まえ、ケアプラン作成に努めております。	ケアチェック表に記入し、利用者一人ひとりの状態を把握し、身体的機能維持に努めたケアプランを作成している。状態の変化があった場合、プランの変更を行っている。計画作成担当者が介護現場に入っているため、その時の状況に合わせた見直しが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子をパソコンにケース入力している。また、申し送りノートを通して、職員間で情報共有している。パソコンに入力してあるものを振り返り、介護計画に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化までには至っていない。一人一人を支えるために事業所の多機能化とはどういうものなのか考え、実践できるものを探していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス流行により、地域の方々と交流する機会がなく、地域資源を活かした暮らしの支援にまで至っていない状況です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関してご利用者様、ご家族の希望に沿って対応しております。定期受診により適切な医療が受けられるよう努めております。	家族や本人の希望で、入居前からのかかりつけ医の継続は可能となっているが、協力医療機関以外は家族対応をお願いしている。歯科は事業所で対応しているが、それ以外の専門診療科目は家族に依頼している。急を要する場合は、職員と一緒に受診する場合がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で気づいた点を申し送りノートに記入したり、口頭で気になる点を看護師へ申し送りをし、受診時に医師へ相談できるよう努めております。状況によっては看護師と相談し受診を検討する事もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの日常生活において気を付ける点など、ケアに関しての申し送りを細かくサマリーに記入している。退院の許可が下りた際には、早期に退院の迎えに行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族やご利用者様の意向がまとまっていれば、その方針を伺っておく。また、状態が悪化した際には、医師と連携を図り、その時の段階で、再度、ご家族の意向を確認し、その意向に沿って支援している。	重度化や終末期には医師の説明を受けて貰い、食事介助や面会など接する機会を多くしている。かかりつけ医が診療時間外の対応が困難の為、医療面での対応が必要な場合は、病院に救急車搬送している。医療面での治療がなければ、できる限りの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に初期対応の訓練を行うことは難しい状況ですが、休憩時間に急変時の対応を確認しあう機会を設けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を1年に2回行っている。地域住民にも協力要請をしております。	消防署立合いの訓練後、夜間想定だけでなく、日中想定訓練を行うと良いのではないかと、安全面を考えヘルメットとヘルメット用ライト、拡声器があるばとの助言を貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるよう、順番に避難訓練担当の職員を割り振りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対して、危険な状況以外、「○○だめですよ」「それ違いますよ」など否定的な言葉ではなく、安心して頂けるような声掛けや環境作りに努めております。	利用者の尊厳、プライバシーに関しては、一人ひとりが意識していくことが大事、また職員同士で振り返る事が大切であると伝えている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、職員が間に入って対応し声掛けするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「もう少し寝ていたい」といったご利用者様にはゆっくり起きて頂いたり、自主的に「○○やってやるよ」といった事が安全であれば、ご利用者様にお願いしたりすることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「もう少し寝ていたい」といったご利用者様にはゆっくり起きて頂くなど、ご利用者様のその日の体調に合わせ、ご利用者様のペースで生活が出来るよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度のペースで散髪をしている。また、髪を整えたり、目やにが出やすい方は、その都度拭いたり、汚れた衣類を交換するなどの対応に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誕生日には、希望を聞き好きなものを提供しております。	会話の中で食べたい物の話が出た時など、可能なものはメニューに加え提供するようにしている。近隣住民より野菜の差し入れがあり、旬のもの提供をし、季節感を味わって貰えるようにしている。一人ひとりの食べる力に合わせて調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をつけ、食事摂取量を把握している。また、お茶のほかに甘い飲み物を提供する事で、少しでも水分摂取が出来るよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状態に合わせた口腔ケア用具を使用。見守りや介助にて口腔ケアの対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、本人訴え又は、排泄間隔を見ながらトイレ誘導している。おむつの方でも、坐薬挿入後に少ししか排便みられない方にはトイレ誘導を無理のない範囲で行っています。	トイレでの排泄を目標に、本人の訴え時、または排泄間隔をみながら出来るだけトイレ誘導を心がけている。排泄に失敗しても、大丈夫ですよと声掛ける姿勢で対応している。居室にトイレがあるため、居室の戸を閉めプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品(ヨーグルトや牛乳)を取り入れ、毎日ラジオ体操やボール運動などで体を動かしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人のタイミングに合わせる事は難し現状ですが、「入りたくない」という方には別の日に入ってもらくなどの対応をしております。	入浴を嫌がる方はいないが、その日に声かけしても入りたくないという方には、次の日に声かけするなどしている。冬至にはゆず湯にするなど、季節感を感じてもらえるようにしている。浴室暖房と脱衣所の暖房を使用し温度差をなくすようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝以外にも体調によっては、横になって頂いたり、カーテンやエアコン、換気などで室温調整をし、休みやすい環境作り努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を見ながら一人ひとり処方されている薬を把握している。申し送りの一やケース記録などで薬の変更や中止になったものなどの確認をしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フキの時期にはフキの皮むき作業をして頂く事があります。家にいたときに行っていた作業は体が覚えており、生き生きとした様子が伺えます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関して、一人ひとりの希望に沿って対応する事は難しい現状です。季節感を味わって頂けるよう、敷地内に出て景色を見たり、ドライブに出かけるなどの対応をしております。	外の空気や光を浴びることで、体内時計を修正し、季節を味わうなど、暖かい日には外に出る、廊下の日が入る所で日光浴をして貰っている。自立の方と天気の良い日には毎日のように散歩に出かけ、家族の協力でお盆や正月などの機会に外泊や外出される方がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持されているご利用者様は一人しかおりません。希望に応じて使えるような支援は難しい現状です。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご利用者様の希望に沿って手紙や電話の支援をしています。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースは常に外の景色が見られる作りとなっており、ホールから見える木や草花を見て季節感を感じられるようになっております。朝日や西日がまぶしくないようロールカーテンで対応しております。</p>	<p>ホールでの方、居室で過ごす方など思い思いのかたちで生活している。動線に出来るだけ物をおかず、安全に通れるようにしている。職員の体調管理、手洗いうがい、体温記入、マスクの使用、手指消毒などし快適に過ごせるよう、温度、湿度の調整をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご利用者様同士の相性を見ながら孤立する事がないよう、環境作りに努めております。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>トイレのカーテンを閉めているご利用者様もおります。他、居室には、ご家族から送られて来た手紙や誕生日カードなどを飾ったりといった温かい雰囲気作りに努めております。</p>	<p>ベッドの高さは利用者の身体状況に合わせ対応し、動線上、転倒の危険性がないようにしている。居室を間違わないよう名札を貼っている。清掃は職員が行い、衣替えの時期に家族に衣類をもって来て貰い、職員がタンスに整理整頓し、利用しやすいようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室の入り口にネームプレートを設置しております。</p>		